



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

会報 第118号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：日本LD学会の道標
- ・〈連続講座〉新学習指導要領時代における学びの多様性を生かすための一貫した支援
- ・〈大会特集〉第30回大会（神奈川）プレ講義
- ・委員会リレー企画 大会等支援委員会紹介
- ・PATIO～実践の最前線～



日本LD学会の道標 —特別支援教育士資格認定協会との 二人三脚の中で—

明星大学発達支援研究センター 客員教授

小野次郎

小児科医である私にとって、かつて学習障害（LD）はなかなか難解な代物でした。外来診療では疾患の話が中心で、勉強の話が出てくると、「学校の先生に相談して下さい」で終了していました。

私自身はLDとの接点は余りありませんでしたが、文部科学省が2003年に報告した実態調査の結果から、LD・注意欠如多動症（ADHD）・自閉スペクトラム症（ASD）に注目が集まり、私もLDの重要性を認識しました。

LDはADHDやASDに比べると、表に現れる症状が極端に少ないため、気づかれにくい状態です。その意味でも、日本LD学会が専門職集団として、LDの子ども達の支援を担う役割はとて大きいと考えます。LDの場合、教育現場では、学習面での遅れが顕著にならないければ、教員でもなかなか気づけません。本来は、学習面での遅れが現れる前に気づいて、支援を提供すべき対象です。

日本LD学会では、上野一彦先生や竹田契一先生らが中心となり、特別支援教育士資格認定協会（以下、協会）が認定する特別支援教育士（S.E.N.S）と呼ばれる、LD教育にも専門性を持

つ認定資格を創設しました。S.E.N.S有資格者は、通級における指導をはじめ、LDを含む発達障害のある子ども達の教育的な支援を担っています。このような状況も踏まえ、これからも学会と協会は、LDのある子ども達を支える両車輪として、歩調を合わせて進んでいかなければなりません。

発達障害の支援において、ADHDやASDの行動面の問題に目が向きがちです。私はLDの子ども達と関わる中で、発達を促す大切な要因の一つが、「勉強がわかる」という気持ちをもてること、と痛感しています。たとえ、LDの診断がなくても、子どもの学習面での困難に気づき、適切な教育的支援を提供できることで、子ども達は様々な面で伸びていきます。そのためにも、日本LD学会が、LDのある子ども達の支援に焦点を合わせて、学会員、S.E.N.S有資格者からの力をいただき、協会と二人三脚で歩んでゆけることを願っています。

副理事長としての8年間の任務が来年6月に終わります。それ以降、一会員として、どのような働きができるのか考えているところです。